

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 東屋)

事業所番号	0670101971		
法人名	医療法人敬愛会		
事業所名	グループホーム馬見ヶ崎		
所在地	山形県山形市桜町1丁目17-23		
自己評価作成日	平成31年 1月 5日	開設年月日	平成17年 7月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様が自己選択・自己決定が出来る環境を整え、周りの方との関わりを大切にしながら一人一人の可能性を引き出していけるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成31年 2月 1日	評価結果決定日	平成 31年 3月 6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家事や畑仕事を日課として活発で賑やかな毎日を過ごす中で、朝食の支度をし食後の片づけや掃除洗濯を終えて10時のお茶でホッと一息つく生活は一般家庭と何ら変わりなく、事業所にかかってくる電話の対応や来客へのお茶出しなども難くこなしています。入居当初は難しくなっていた事もできないと決めつけず、どうしたらできるかを試行錯誤しながら利用者職員が一歩ずつ目標に向かって努力した結果が自信に満ちた表情に表れています。利用者間に感情の行き違いがあれば「寄り合い」と称し皆で話し合いの場を持ち、まとまりのよい自治組織のようになっています。利用者一人ひとりを深く理解し敬意を払いながら持てる力を最大限に引き出し、活気あふれる生活を支えグループホーム本来の姿を実践している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が支援にあたる指針として、目につくところに掲げ、日々の中で意識を高められる様になっている。ユニットとしても独自の理念を作り上げ、各ユニットの特色として理念を元にした支援を行っている。	目指すべき事を「運営方針」として常に意識し、職員ミーティングなどで振り返りながら統一したケアをしている。実践に向けて利用者が今持てる力を引き出し、一人ひとりに合った役割を担い「自分の事は自分で」してもらい職員は見守りに徹している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており回覧板も入居者の方から回していただいている。夏祭り、芋煮会等、町内行事へ家族も参加し、交流を図っている。	「地域の一員として何かしよう」という利用者の言葉でゴミ拾いから始まった小さな地域貢献の姿勢が理解に繋がり、町内行事などでも温かく受け入れられている。地域内の障がい者施設の職場体験なども受け入れ親しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所のスーパーに毎日通う事により、店員の方に顔を覚えてもらい、認知症の方でもできることがたくさんあり、関わり合い次第で自分たちと何ら変わらないという事を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一度、5つの町内会の方を順次招いて、日頃の取組みや入居者の様子を伝えている。出席者同士、意見交換の場になっており、新たな課題を次年度に活かせるよう、取り組んでいる。	地域の町内会役員や地域包括支援センター、障がい者施設管理者などの参加を得て、生活の様子をスライド上映しながら利用者が説明して感心されている。出席者からの助言や地域の困難事例の話題などもあり情報を共有し運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで包括職員の方や地域の方と顔を合わせたり、月に一回介護派遣相談員の方を受け入れ入居者の方の生活の様子を見ていただいてアドバイスをいただいている。	市役所からの案内や情報などはメールで受け取り、書類提出に出向くなど、必要に応じ連絡を取っている。成年後見人制度利用者や生活保護受給者も受け入れ、社会福祉協議会職員や市担当者の訪問もあり実状を伝え連携して暮らしを支えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束排除宣言を実施している。月に一度、職員MTの際にも日頃気になっている職員の対応や言動を振り返り話し合う場を設け、入居者の方の尊厳を大切にケアの統一と情報の共有を行っている。	「拘束ミーティング」で不適切な言葉や疑問点、リスクの予測などの事例を出して話し合い学習している。散歩が日課の方には安全対策をして出かけてもらい、帰宅願望の方はパターンを把握し不穏に陥る前に散歩やドライブに誘い気分転換をもらうなど、自由な暮らしを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行動範囲の制限をせず、日中の玄関の施錠も行わない。自由に出入りできる環境にしている。虐待に関する勉強会に参加し、統一した支援ができるよう取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や生活保護を利用されている方や若年性認知症の方の受け入れも何度かあり、職員の学びの機会となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学をお勧めし、契約時は出来るだけ本人に同席して頂いている。十分な時間をとり御家族と本人に契約書類、重要事項説明書の全ての項目に目を通して頂き、不安が残らないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には日常の様子をお伝えしたり、カンファレンスでも本人、家族と顔を合わせ生活の様子を報告している。また家族を招待した行事や旅行などを企画し、直接話を聞ける機会を設けている。	面会などの来訪時に家族等に現状を説明し意見や要望を聞き、取り組みに活かしている。隔年に利用者・家族・職員が参加して1泊旅行を企画し本音で語りあい、信頼関係を築く良い機会となっている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行っており、現場の様子を共有している。年2回の個人面談を行い、直接スタッフと意見交換できる時間を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための補助や、休みの確保を行い、スタッフの向上心を促している。年2回仕事に対する姿勢を振り返りを行う意味で個人面談、個人評価を行っている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での介護研究会や外部での研修会の場に多くのスタッフが参加できるようにしている。支援の取り組みを発表する場を設け、皆で考え取り組んでいこうという姿勢がある。	職員一人ひとりが目標を設定し半年毎に管理者と面談・個人評価を行い、成長や課題を明らかにし知識や技術の向上を図っている。また「こころみマネジメント」では提案や取り組みの相談を行い、職員の意欲を大事にしてケア向上の原動力となっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH協議会へ参加し交換研修生を受け入れる機会を作っている。また他施設への研修も行っている。障がい者施設から毎月ボランティア訪問があり、受け入れを行ったり保育施設からの訪問も受け入れている。	山形県グループホーム連絡協議会への参加や交換研修の派遣と受け入れを行い優れた点を学び合い、サービスの質向上を図っている。また新規開設事業所から開設前研修や事業所見学の依頼に応じ積極的に交流している。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学をお勧めし、ご本人にも施設の雰囲気を感じて頂いている。入居前に生活歴をお聞きし、本人の大切にしてきた事を汲み取る様にしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から本人の様子を伺い、入居時には十分な時間を取り不安を取り除けるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後1か月以内にカンファレンスを行い、十分なコミュニケーションをとり、本人、家族の意向を聞きだしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者主体で一日の生活を送れる支援を行っている。スタッフは入居者の意向を反映出来るようそっと支援している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も参加できる行事を年に数回設け、今年度は家族も含めた一泊旅行を行っている。施設の中では味わえない良い雰囲気の中でコミュニケーションを深められた。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に馴染みの店、美容院や商店街、友人関係など聞き取りをし、入居されても繋がりが途切れない様に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員との一対一の関係性ではなく、入居者の方同士が関わり合い、響き合える生活を送れるよう間に入っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の生活の場を家族と一緒に探し、情報を提供し不安なく新しい場所で生活出来るよう支援している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅にいた頃の生活習慣を継続して行えるよう支援している。また会話の中で本人の意向を聞きだし、気持ちに寄り添っている。	入居前に本人や家族等からの聞き取りと日々の関わりの中で思いや意向を把握している。現役時代の職業や地位への誇り、家族等への思い、信仰心などを一人ひとりが大切に持ち続けてもらい思いに沿った生活ができるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に出来るだけご自宅の様子を見せて頂き、本人が安心出来る環境作りに努めている。入居前に生活歴を詳しくお聞きし、今までと同じスタイルで生活出来るように支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活習慣やペースに合わせた入居者主体の生活を組み立てている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化に応じて、その都度現状に合った介護計画を立てている。新たな介護計画は全員に周知し、統一した支援がすぐ行われるようにしている。	本人の思いを大事に家族等の意向も取り入れてプランを作成し、課題の分析や評価は毎月行っている。自宅では出来なくなっていた家事や毎日の散歩なども、習慣として出来るようにするために必要な課題を盛り込んで目標達成に繋いでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送りなどで情報を共有している。月に一度は支援計画に沿った報告を行い、支援計画の見直しを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近所の総菜屋やスーパーを利用し、地域に根差した生活を送っている。また個別でもその方と関わりのある地域へ出向いている。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>今までのかかりつけ医に継続して通院できるようにしている。受診時にはサマリーを渡し、家族、主治医に詳しく情報を伝えられる様にしている。</p>	<p>受診時、家族等の付き添いには利用者のサマリー(情報)を持参してもらい、職員が同行する場合は状況を詳しく端的に医師へ伝え適切な受診に繋げている。夜間や急変時の対応についてマニュアルをシミュレーションするなど慌てないよう日頃から心掛けている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>デイサービスの看護師と一日一回報告をおこなう、適切な助言を頂いている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>顔馴染みの入居者の方とお見舞いに行き、入院中も淋しくない様に努めている。面会時に看護師に状況を聞いたりリハビリの様子を見に行ったり退院後の生活に不安のないよう配慮している。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に看取りを行っていないことを説明し、理解を頂いている。退居後の受け入れ先の相談を行っている。</p>	<p>看取りは行わない旨を入居時に家族等へ説明し同意書を得ている。身体低下に伴い座位が保てなくなったり歩行困難などが見られた場合は、本人・家族等・医療関係者と今後の方向性を話し合い共有を図り、安心して過ごせるよう取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一年間のシュミレーション計画を立て、月に一度テーマに沿った緊急時の訓練を行っている。年に二回外部講師を呼んでの心肺蘇生の研修を行っている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼と夜とを想定しての消防訓練を行い、実際に避難をしている。地域で行われる救命救急講習会にも参加している。	避難訓練は火災や水害・想定を変え隣接の通所施設と合同で実施する他、事業所独自でも行っている。火事ぶれや消火器の訓練に利用者も参加し、職員はシーツ搬送訓練するなど日頃から意識づけをしている。リュックサックに持ち出し物を用意し、備蓄も確保して非常時に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線を合わせ、相手を敬うような言葉を選び、慣れ合いの関係になりすぎない様に接している。居室やトイレに入る際もノックをして断りをいれている。	利用者はそれぞれの役割を持って過ごし、職員は畑仕事、古くからの習わしなど利用者から教わる事も多く、感謝を伝え敬意を払い関わっている。入浴やトイレ誘導では同性介助するなどプライバシーに配慮しその方に合わせた対応をしている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面で選択出来る環境を提供し、自由に自己決定出来る場を多く作っている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話の中で意向を汲み取り、『今、やりたい』の気持ちに寄り添い、行動にうつせる体制を作っている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特別な外出の機会を作り、気分を高め、おしゃれを楽しめるよう支援している。日頃からお化粧の習慣なども継続している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられるよう旬の食材を取り入れたり食べたい物がイメージ出来るよう、料理本や広告を使ってみんなで献立を考えている。入居者と一緒に台所に立ち、互いに助け合う雰囲気作りを心がけている。	毎日、食材の買い物に利用者も出かけ食事の支度をあたり前に行い、昼食は3種から好きなものを選択することができ利用者が取りまとめ、和やかに美味しく食し楽しみとなっている。笹巻き・梅干し作り時の材料収穫など一連の作業を利用者が行い、生き活きとした姿が見られている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に食事量の確認を行っている。トロミやミキサー食を提供し、個々に合った食事形態を提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの習慣や状況に応じた口腔ケアをし、清潔を心がけている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、タイミングをつかみ、気持ちよくトイレで排泄できるようにそっと声をかけている。夜間や日中の排泄状況に応じて、リハビリパンツや布パンツを使い分けている。	自立の方も多く一人ひとりのパターンを把握し仕草を察知して、必要に応じさりげなく誘導を促すカードを差し出し羞恥心に配慮している。退院後の利用者へこまめな誘導の結果、排泄用品が不要になった例もありトイレでの排泄を大切に支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に身体を動かす場面を多く作り、十分な水分が採れるようにしている。毎日ヨーグルトや食物繊維の多い食材を取り入れ、自然排便へとつなげている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	生活歴に合わせ、夜間は9時まで好きな時間に入浴できる対応をしている。入居者同士誘い合ったり地域の温泉に出掛けたりし、楽しんで入浴している。	週に3回を目途にしているが、夜間や毎日入る方もおり時間帯も柔軟に対応している。ゆったりとした入浴で利用者の本音が聞ける場となっている。拒否の方には音楽をかけたり、職員と共に温泉に出かけるなど、不安なく気持ち良い入浴ができるよう努めている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の就寝時間に合わせ、お部屋や食堂でくつろぐ時間を提供している。不安がある方には寄り添い、一日を振り返ったり日記をつけたりして不安を軽減できるように対応している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を把握し、些細な変化も記録に残すようにし、薬剤師や主治医へ相談している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を発揮し、自信を持って生活出来るよう関わっている。思い出の地に個別で出掛けたり、欲しいものを選んで買物出来る楽しみの時間を作っている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い出しへ毎日出かけ、地域とのつながりが感じられる様にしている。家族とも協力をし、遠方でも希望があれば出掛けられるようにしている。	馴染みの惣菜店や食材の買い物は利用者が交替で行き、自宅と変わらない生活をしている。初市・カラオケ店などにも出かけ利用者には笑顔とワクワクした姿があり、家族との一泊旅行は楽しみとなっている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族にも了解を得、個人でこづかい程度のお金を所持している。買物の際は、なるべく入居者から支払いを行って頂き、金銭感覚の維持に努めている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部からの電話を入居者の方に受けて頂いている。家族の声が聞きたくなったらすぐに電話できるようご家族からも了解を得ている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方が描いてくれた絵を食堂に飾り、話のきっかけにしたり、季節を感じる花を置いたり日めくりカレンダーを置き日付の感覚を持ってもらえるようにしている。	ダイニングには利用者全員で作った目標や一人ひとりが考えた標語を日めくりカレンダーにして掲示し、テーブルは全員の顔が見られるよう配置して、家庭的な環境づくりに努めている。廊下にはソファを置き、気の合う友達同士で外の桜を眺めるなど季節を感じながら過ごしている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、仲の良い入居者同士が楽しくおしゃべりをしたり、そっと一人になれる場所を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>出来るだけ使い慣れた家具を持ちこんで頂き、居心地良い空間作りを行っている。家族の泊まりをいつでも受け入れている。</p>	<p>ベッドの向きや身体に合わせ動線を確保し、得意な趣味を披露した時の写真や絵、信仰しているものなどを傍に置き、その人らしく落ち着いて過ごせるよう設えている。馴染みの椅子なども配置し、家族等が来訪した際にくつろげるようにしている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>どうすれば自分で出来るかを常に考え、声掛けや環境を工夫している。</p>	/	/	